第22回日本消化管CT技術学会（GICT）総会・学術集会に参加して

小樽掖済会病院　平野雄士

皆さんお元気でしょうか？私は元気になりました。昨年はこの学会終了時に救急車で運ばれたり、その後入院したりと経緯は編集後記に綴りましたが、あれから約一年を経て2024年6月29日（土）国立がん研究センター築地キャンパスに戻ってきました。第22回の日本消化管CT技術学会（GICT）総会・学術集会の開催です。

今回は副理事長でもある鈴木雅裕さんが大会長を務め、長澤宏文実行委員長（国立がん研究センター中央病院）他5名の実行委員の協力により開催されました。

一般演題は4題の報告がありました。①CTCと3Dトモシンセシスの解像特性の比較では、トモシンセシスは観察方向によって非常に高い解像特性を示し、CTCとは別の観察方法に対する期待度もあるせいなのか、白熱した議論になりました。「3次元的には難しいけれど、解像度は捨てがたい。」という感じです。そのほか②Dual Energy撮影が有効であった症例③無下剤とAIを使ったシステム開発④透析患者におけるCTCについての報告がありました。どれも既存の方法とは違うアプローチ、考え方の演題だったので質疑応答も活発に行われ、予定時間を大幅に超過した熱の籠った討論ができました。

ランチョンセミナーでは国立がん研究センター中央病院の三宅基隆先生から『AI時代における大腸CT診断の新しい可能性』の報告がありました。AIを利用した読影支援であるAbierto Reading Support Solutionの解説やAbierto RSS上で稼働するTemporal Subtraction For Boneの有効症例の報告を交え、ディープラーニング再構成のAiCEとはまた違ったCANONのAI技術の進歩を聴講することができました。また、講演の中で80歳以上の高齢者は内視鏡ではなくCTCを最初の選択肢にとも仰っていました。検査が難しい対象へのアプローチが必要です。

その後総会を行い、事業報告、事業計画、会計報告、予算案が承認されました。

午後の始まりは今回のテーマセッションである『今できることを見

直そう～大腸 CT 情報番組『情報番組コロノ屋』です。大会長の鈴木雅裕先生、九州大学病院の鶴丸大輔先生が司会を務め、情報番組のミヤネ屋風にコメンテーターやレポーターを配して、昨今の CTC について討論を進めていきます。ほとんど打ち合わせなし（？）にも関わらず、前処置や腸管拡張について、飯沼先生、小倉先生、岩宗先生、松田先生それぞれの含蓄のあるお話に大いに盛り上がりました。また、本題とは離れますが、今回の話題の一つに鶴丸先生デザインの CTC の T シャツがありました（写真）。涼しそうで羨ましかったです。

最後のセッションでは講演 1 として藤田医科大学の辻岡先生より『高精細 3 次元画像作成のための基礎知識』がありました。近年の CT では解像特性としては MTF だけでは十分ではなくピーク CT 値が重要である点や、高精細 CT はらせん穴あきファントムで評価できることなど、難しい内容を紐解くように解説していただきました。本学会に合わせた CTC 用のファントムの紹介もあり、とても勉強になりました。今更ですが、装置性能の正確な把握が大事ですね。講演 2 は聖マリアンナ医科大学の森本毅先生より『術前大腸ＣＴ再考』と題してご講演頂きました。森本先生は CTC 黎明期のタスクフォース時代から、CTC の研究に勤しみ、その発展に寄与してきました。今回は昔懐かしい写真と共に大腸がんの CTC 画像読影のポイント、外科カンファレンスでの実際の様子などお話しいただきました。臨床に役立つ画像をチームで作っていくことが重要と改めて思いました。

さて、今回の東京開催は救急車のお世話になることもなく無事完了しました。

次回、第 23 回の学術集会・総会は倉敷成人病センターの木下琢実さんに大会長をお願いし、岡山国際交流センター国際会議場で 2025 年 6 月 21 日（土）に行うことになりました。岡山に行ってみたい方、今まで岡山に行ったことない方、チャンスです。一緒に CTC を語り合いましょう。

鶴丸先生、三宅先生が CTC シャツを着ています。デザインがイケています。ネット販売しているようなのでご確認下さい。